

巻頭言

日本放射線技術学会東北支部
副支部長 金沢 勉

本年度から豊嶋副支部長の後を引き継ぎ、東北支部副支部長を担当しております新潟大学の金沢です。坂本支部長の下、微力ではありますが東北支部の事業活動に対して尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。東北支部は、ここ数年で組織の強化に取り組んでおり、役員では2名の副支部長に総務と学術・教育の担当制を採用し、より効率的な支部運営を行えるようにしました。また、2019年より9班の学術研究班を新たに編成し、事業計画を担当してもらうことで、より視野が広く専門性の高いコンテンツが開催されるようになり、東北放射線医療技術学術大会での企画も含めて会員に有益な情報をもたらすことができつつあると感じています。この学術研究班に論文塾であるWilhelm Camp班を加えた10班には、会員同士の情報交換と学術の進歩に寄与するという日本放射線技術学会の目的の本道を担うことで、東北支部の根幹を形成し、更には次世代のリーダーとしての役割を期待しております。

さて、2021年も新型コロナウイルス感染症対応に明け暮れた1年でした。思えば、2020年の2月にクルーズ船のダイヤモンドプリンセス号で乗員乗客にクラスターを生み、日本で大きく問題視されてからすでに2年近くが経過します。その後、私どもを混乱に陥れた第5波の収束をむかえ、現在は、新たな変異のオミクロン株を目前に第6波の入り口に立たされているところだと思います。この2年間で我々は、大変苦しい思いをしてきましたが、経済学等で用いられているニュー・ノーマルという言葉が一般化し、少しずつではありますが前進をしてきました。その一つにウェビナーというツールを手に入れたことが挙げられます。これにより、広く会員が情報を得ることができるようになりました。東北支部としてもウェビナーを利用した講習会を順次開催しておりますが、特に第11回東北放射線医療技術学術大会2021を福島でハイブリッド形式により行えたことは大変有意義であったと思います。この2年間は不自由の中での業務だったと思いますが、東北支部としては、これで、学術活動、後世への技術継承を遅らせるわけにはいかないと強く思っています。その為にも、会員の皆様への有意義な情報発信を行っていきます。来年度の第12回東北放射線医療技術学術大会は11月19日-20日に行われます。研究発表の場はとても重要と考え、少しでも良い形で開催できるように実行委員が準備を進めています。是非、新潟の地でも発表をお願いします。

医療の現場の最前線に立たれている会員の皆様におかれましては、苦しい環境がまだまだ続きますが、東北支部としては、技術学会の使命を果たすことで、必ずや将来の放射線技術学の礎を築くものと信じています。ニュー・ノーマルな時代の変化に対応していくためには是非一緒に時代の変革に向かって進んでいきましょう。